

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791300148		
法人名	社会福祉法人 なごみ		
事業所名	グループホームほばら (1F)		
所在地	福島県伊達市保原町字西町162		
自己評価作成日	平成26年5月15日	評価結果市町村受理日	平成26年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の安全と安らぎ、ご家族の安心を第一に1日1日を過ごしていただき、ここにいて良かったと思っただけのように、職員全員で介護させていただいています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 職員は利用者一人ひとりに寄り添い傾聴しながら利用者の意向を尊重し支援に努めており、また、職員と家族とのコミュニケーションもとられ、家族の面会等も多いことから利用者の安心につながっている。 2. 法人では職員の資質向上に向け、法人内研修や外部の研修への参加を計画し、実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年事業所が開所したばかりのため、法人の理念の基、職員間で共有し実践している過程であり、事業所独自の理念を作成するために検討している	昨年の6月に事業所を開設したため、法人理念をもとに職員間で共有しながら、実践につなげている。事業所の理念はまだ検討中であり、今後作成することとしている。	開所して1年になることから、速やかに地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作成して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入していることで、事業所が地域住民の一部として地域行事等に参加することや学校等からボランティア受け入れを行っている	町内会に加入し、利用者と一緒に地域の祭りや近くの名所へ花見等出かけたり、地元の中学生の福祉ボランティアや職業体験を受け入れる等、双方向で交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して、認知症ケアの専門性を活かした知識や技術を地域へ貢献するために準備している過程である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	事業所での取り組みや現況の報告、事業所と地域及び行政等の情報交換、お互いの課題や懸案事項の懸案事項の検討等の内容、及び会議を重ねていく中で出てくるであろう議題等をサービスへ活かすため立ち上げたばかりである	運営推進会議の委員の委嘱が円滑に進まず、5月に第1回目を開催したが、委員は家族の代表、地域代表として事務局の職員のみ参加であり、他の分野の委員はこれから依頼するところである。	指定基準により、運営推進会議は、2か月に1回開催することが求められている。委員は、行政又は地域包括支援センター、利用者又は家族、地域の代表等に委嘱し、開催して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当職員による訪問、行政窓口へ出向いた時等に、現在の入居者や職員の状況等を相談する等し、協力関係が築けるよう取り組んでいる	行政担当者とは、介護保険の手続き等で窓口を訪問したとき等に職員の状況を相談をしたり、利用者の状況報告を行う等、連絡を取り合い、協力関係が築けるよう取り組んでいる。また、行政担当者の訪問を受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で実施している研修等に参加する等し身体拘束の具体的な行為及び本人の言動等を抑制することは全て身体拘束と認識し、それを行わないケアを実践している	法人内勉強会が行われており、身体拘束の具体的な行為等に対し職員の理解を深め、身体拘束のないケアを実践している。夜間以外は玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で実施している研修等に参加する等し虐待に関する関連法を学び、入居者、家族、職員等の気づきから虐待を見過ごすことのないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの制度が必要と考えられる入居者等がいれば活用できるよう準備はしてある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前及び入居時に時間を取り説明し同意を得ている。介護保険法や報酬等の改定、介護認定区分変更による利用料金の変更又は重要事項に変更があった際も、その都度十分に説明し同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者については日常の生活から意見を表出できるように働きかけ、家族等については面会時や遠方の方には電話等で、意見や要望を汲み取るよう努めている	家族の面会時、電話連絡時等に職員が積極的に、家族の意見・要望を聞くように努めている。把握した意見・要望等は詳細に記録し、職員間で情報共有しながら、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の各事業所の代表者等による定期的な会議が実施されており、事業所職員からの意見や提案が全体で把握できるシステムがある。また代表者等が随時に職員個人個人からも話を聞くことで、速やかにかつ効果的に運営に反映させることができている	法人は職員の資質向上等に積極的に取り組んでおり、毎月の会議に本社職員も参加し、職員の意見や提案を把握し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人においてキャリアパス制度が確立されており、かつ状況に応じて柔軟に就業環境改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画の基、法人内外での研修参加できるようシステムができており、職員の立場やレベルに応じて育成している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体での研修等を通し、関連事業所との交流があり、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みから入居までに至る過程で、相談、実態調査、アセスメントを通し、本人や家族の思いを受け止め、安心してサービスを受けていただくことができるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みから入居までに至る過程で、相談、実態調査、アセスメントを通し、本人や家族の思いを受け止め、安心してサービスを受けていただくことができるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントを通し、様々な社会資源から必要とされるサービスを総合的に勘案し、相談・助言を行い、対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員ではなく、お互いが協働し、ひとつ屋根の屋根の下で過ごす者同士として、和やかな生活ができるよう共に感謝し支え合う、関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族間のこれまでの関係性を尊重しながら、日常生活、又は行事等において、協力して支えられるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のなじみの場所へ外出や、親類の方に面会に来ていただく等、なじみの関係が継続できるよう努めている	利用者の家族や兄弟・友人・昔のお弟子さん等の面会があり、ゆったり話しができるよう配慮している。また、地元の名所へ花見に出かける等馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や人間関係に十分配慮し、孤立しないよう職員が調整役として、その時々場面や気分的な面を考慮しながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて関係継続に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち職員を中心に全職員で、入居者の言動や表情、しぐさ等から情報収集し、意向や希望の把握に努めている	毎日のケアの中で利用者の思いや意向を把握し、家族来訪時には、家族の意見や意向も確認している。また、日常生活の中での表情、行動や仕草から推測して汲み取り、利用者本位の支援となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中での観察から得る情報と合わせて、家族、知人等を介し、これまでの生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、言動、心身状態とそれらに応じた一日の過ごし方等、一人ひとりの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者及び家族等に思いや意見を聞き、他職種からの意見を反映させた介護計画を作成し、必要に応じて見直しを行っている	利用者・家族の意向をもとに、利用者の身体状況等の変化があれば、アセスメントシートで確認し、職員の意見を取り入れ、介護計画を見直ししているが、定期的な見直しは行っていない。また、職員は利用者一人ひとりの介護計画の理解が十分でなく、計画に沿った支援記録等も少ない。	定期的にあセスメントとモニタリングを行うことで介護計画を見直しして欲しい。また、職員一人ひとりが利用者ごとの介護計画を理解し、計画に沿った支援内容を記録することが求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録へサービス内容の記録、健康状態、暮らしの様子、言葉等記録、共有しサービスの実践や介護計画立案等へ活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の意向、ニーズ等や日々変化する状態、要望に応じて、その時々に必要なサービスを提供できるよう柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容や地域の観光地への外出等、提供しているが、より多様な資源を有効活用するため検討している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康状態に応じた適切な医療機関での診察、これまでのかかりつけ医や協力医療機関からの訪問診療等、状態や希望に応じて医療を受けられるよう支援している	利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。通院は主に家族が行い、事業所での訪問診療は職員が対応している。訪問診療の際も受診記録を作成し家族と事業所と職員間で情報の共有が図れるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の日常的な気づきを書面及び口頭で報告し、看護職と協働して適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族等と協力しながら、面会時や電話連絡等で病院関係者からの情報収集や状態把握に努め、治療、リハビリ、退院後の生活等の相談をし、適切な治療と早期退院での支援をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看護師から認知症の進行状況や入居者の持病などに合わせ、のちに起こり得る状況等を説明し、また施設での対応可能な医療レベルの説明も行い、重度化した場合の対応を早期より考えていただいている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やマニュアルの作成により、緊急時の対応についての実践力を身につけるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の防災訓練の他、自治体での防災に係る取組みの説明会等に参加している。地域との連携が課題となっているため、連携強化に努めている	年2回の防災訓練と年2回の自主訓練を実施しているが地域住民の協力は得られていない。災害想定のお知らせ訓練、自主訓練等を実施しているが計画されているような定期的な訓練は行われていない。また、備蓄も十分とはいえない。	運営推進会議等で地域住民の協力体制を築くとともに、様々な災害を想定した避難訓練を年間を通じて繰り返し行って欲しい。また災害時に備え非常食等の備蓄も準備して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や誇りを尊重した言葉かけや対応ができるよう努力しており、入居者個人個人として意識しプライバシー確保に努めている	職員は法人内研修に参加し、言葉かけについても利用者のプライドや人権を傷つけないよう取り組み、居室入室の際は利用者へ声をかけるよう心がけている。自己決定する機会への配慮もなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いや希望の表出、自己決定へのアプローチ方法等、認知症研修等を通し、入居者一人ひとりにあった対応を学び、働きかけるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの中で、入居者の希望やペースに合わせて対応しながら、その人らしさを発揮できるよう個別支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣やこだわり等を考慮し、化粧品や衣類、小物等でその人らしさを表現できるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	基本的に管理栄養士が作成した献立に基づき食材を調達しているが、週に1回は入居者の希望等に基づいた献立を作成している。調理や後片付けもできる場所は一緒にを行い、楽しめるよう取り組んでいる	食事担当の職員が利用者の嗜好調査をし、週1日は希望の多い煮物や季節の食材を使用したメニュー作りをしている。利用者と会話等はあるが昼食休憩時間の関係で職員と一緒に食事をしていない。またラーメンやお寿司等の外食の機会がある。	食事の一連の作業を通じて利用者の力を引き出すことや利用者との関係作り等の点から、職員も一緒に食事をする雰囲気作りに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立てており栄養のバランスが整っている。また、水分摂取量や食事量も毎食毎チェックしているため、その増減等から嗜好等を把握し、適切適量が摂取できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとり力に応じて口腔ケアを行い、口腔内の観察を行っている。また、必要に応じて、かかり付け歯科医で指導や治療等を受け清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	これまでの生活習慣や排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、トイレ誘導やオムツ交換を行い、一人ひとりの力に合わせてオムツ外しを心がけ、出来る限り自立しトイレで排泄できるよう支援している	利用者の日々の習慣や排泄状況の記録を基に排泄リズムを把握することで、日中はできるだけトイレで排泄できるよう、自立排泄へ向け支援している。誘導の声かけのタイミング等、本人がわかりやすいよう個別的な対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適量の水分摂取を目標に水分補給や運動、下腹部等のマッサージ、乳製品等、便秘や整腸に効果的と考えられるモノを取り入れ便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望のない方には希望が表出できるよう支援し、また入浴を好む時間を把握するように入居者一人ひとりの意向に沿い入浴ができるよう支援している	その日の体調を確認し、一番風呂を希望する利用者には希望を取り入れる等、3日に1度は入浴できるよう支援している。また、ゆったり入浴できるように入浴剤の選択ができ(森林浴、さくら、ラベンダー等)菖蒲湯や桃の葉等の季節が感じられるよう工夫もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて個別に午睡を促すことや、日中の活動により夜間の安眠へ繋げるための配慮をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬剤師に届けてもらいその場で用法用量等の指導を受けている。また薬情を個別にファイルし、必要時に確認できるようにしている。また出来るだけ薬を減らせるよう医療機関と検討している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、家事、趣味、特技等、役割や楽しみが持てるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見等季節を感じられる外出支援、散歩、入居者の希望により他施設でのボランティア活動等、家族や関連事業所等と協力しながら外出の支援をしている	事業所の外出行事には全員で花見に出かけている。誕生日の希望外出では猫カフェで過ごしたり、また個別的に事業所の界隈に散歩に出かける等外出支援もしている。家族の協力を得て外出している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設で金銭管理している。買い物等支援の際や希望に合わせて、本人の力を踏まえ柔軟に対応するようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、本人の希望と家族の都合を突合しながら、季節的なあいさつ随時の希望に応じてやりとりできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けや生活感のある家具等、空調や遮光を季節に応じて調整する等居心地良く過ごせるよう工夫している	共用空間の通路には生け花やレース編みやぬりえ等の利用者の作品があり、季節を感じられるような飾りつけがなされている。ソファの位置にも気を配り、利用者が外を眺めたり休憩しやすい位置に設置してある。室内の温湿度に配慮し過ごしやすい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを談話室や廊下等に配置し、思い思いに過ごせるよう努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居時の持込の家具等を配置、遮光や音に等に配慮した家具の配置場所の検討等、居心地良く過ごせるよう努めている	利用者や家族の希望で趣味の編み物ができるような材料を持ち込んだり、小物や写真、馴染みの家具等、使用していたこたつを本人の好みに沿って配置し、安全にも配慮しながら、居心地よく過ごせるような居室の環境作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者本人の意思を尊重し、できることは自分で行っていただくが目を離さないよう心がけ、リスクが生じる場合は介護させていただくというスタンスで対応する		